プロフェッショナルとして
未来を拓く

立命館大学大学院
スポーツ健康科学研究科

R Sport and Health Science
RITSUMEIKAN UNIVERSITY

2019年7月発行

大学院が、人生を変えた

「スポーツ健康科学研究科で学んだ日々が、いまのわたしの礎になっている」。

考え方、モノの見方、探し方、まとめ方、伝え方…。

社会人に必要なすべてを身につけ、第一線で活躍中の修了生に語ってもらいました。

M

田中 大智（たなか だいち）さん

博士課程前期課程　2018年3月修了
大塚製薬株式会社
ニュートラシューティカルズ事業部

大学院で身につけた“ロジカルシンキング”と“プレゼンテーション能力”は私の大きな財産です。

スポーツ健康科学研究科に進み、論理的かつ科学的に思考する力と研究の成果を伝えるプレゼンテーション能力を身につけることができました。勤務先では、科学的根拠を持って人々の健康を支える製品を店舗に提案したり、行政や企業に対して熱中症や生活習慣病などの健康課題の解決を目指した事業を展開しています。仕事の多くの場面で、大学院で身につけた能力や健康に関する科学的知見が大変役立っていると実感します。本研究科では、先生方や先輩、仲間の存在も大きく、自分の専門分野以外の先生方からも指導やアドバイスをいただけるのが大きな強みです。在学中、10人の被験者を約1ヵ月間、土日祝日関係なく管理しなくてはならない介入実験を行いましたが、これも先生方や研究室の仲間の協力があったからこそ成功したのだと思っています。社会人となった今、本研究科で学べたことは、私にとって非常に大きな財産となっています。

M

渡辺 史子（わたなべ ふみこ）さん

博士課程前期課程　2014年3月修了
株式会社ベネッセ i-キャリア　新卒事業本部
（※パーソルキャリア株式会社から出向中）

答えのない世界で“仮説を立て、立証し、考え抜く力”が身につきました。

スポーツ健康科学研究科では「スポーツとまちづくり」に関連した研究を行いました。現在は総合人材会社で、中途採用～新卒採用領域・キャリア教育の人材コンサルティングに携わっています。一見関連がないように見えますが、本研究科で身につけた「答えのない世界で仮説を立て、立証し、それを主張する力」、そしてそれを下支えする「諦めずに考え抜く力」が、現在の営業・企画・社内外とのコミュニケーションなど、すべてにおいてベースとなっています。特に直近は新規サービス事業に携わっているため、企画やマーケティング要素も多く業務も幅広いですが、大学院で身につけた力は、ビジネスにおいても応用がきくものだと日々実感しています。将来的にはここで積んだ経験をもとに、スポーツで地域に貢献できればいいなと考えています。

スポーツ健康科学研究科修了生　修士論文・博士論文テーマ（一部）

●：修士論文　■：博士論文

- ● 日本人長距離選手における下腿および足部の形態的特徴とランニングパフォーマンス
- ● レジスタンス運動による筋内の性ステロイドホルモン分泌が2型糖尿病の筋量低下・高血糖改善効果に関連する機序の解明
- ● 高校生女子陸上競技選手への栄養支援による疲労骨折のリスク低下および予防に関する検討
- ● スポーツにおける傷害発生の予防に関する心理学的介入法の検討
－Andersen & Williams のストレス-スポーツ傷害モデルの検証と応用－
- ■ 体育における社会的スキルの指導モデルに関する研究：転移に着目して
- ■ 運動・栄養処方による認知機能への効用とその作用機序解明に向けたアプローチ
- ■ レジスタンス運動・トレーニングに伴う糖代謝亢進メカニズムの探索
- ■ 低酸素環境下におけるスプリントトレーニングの効果

スポーツ健康科学研究科修了生　就職先一覧（一部）

国立スポーツ科学センター（JISS）
大塚製薬（株）
クラシエ製薬（株）
大鵬薬品工業（株）
ミナト医科学（株）
（株）東急スポーツオアシス
（株）ルネサンス
オムロンオートモーティブエレクトロニクス（株）
（株）ニューバランスジャパン
（株）バンダイ
山本光学（株）
アサヒビール（株）
キユーピー（株）
KDDI（株）
ジョンソン・エンド・ジョンソン（株）
アクセンチュア（株）
（株）インテリジェンス
（株）ウィルグループ
（株）リクルートホールディングス
（株）西日本シティ銀行
地方公務員（上級職）
教員
（学）立命館
関西テレビ放送（株）

“アットホームな雰囲気”の「スポ健」で研究への情熱がより一層高まりました。

私は、学部から立命館大学スポーツ健康科学部でお世話になりましたが、進学先として「スポ健」を選んで本当に良かったと思っています。最大の魅力は「アットホーム」な研究科全体の雰囲気です。研究室の垣根を超えて先生方がご助言くださり、「研究を積極的にやってみよう！」「もっと頑張ろう！」という意欲をかき立ててくれます。特に、後期課程の3年間は研究に没頭することができ、博士論文では8つの研究課題を設け、学部時代からの7年間の集大成をまとめることができました。在学中は「アスリートにおける運動と食欲」をテーマに研究を行ってきました。現在は、日本のトップアスリートの競技力向上に関わることができる環境で、選手のフィットネスチェックの実施と自身のテーマに関わる研究活動を行っています。将来はアスリートの競技力向上に科学的な視点から貢献できる研究者になることが目標です。

D

小島 千尋（こじま ちひろ）さん

博士課程後期課程　2019年3月修了
日本スポーツ振興センター
国立スポーツ科学センター　研究員

“社会のニーズに応じた研究”を行い、その成果を発信し続けたい。

私は他大学から、スポーツ健康科学研究科に進学しました。私の志望する研究分野において、国際的な研究実績が多数ある研究室があること、また施設の充実ぶりを実際に見学して進学を決めました。在学中は、世界最先端の研究を行っている先生方と最新鋭の設備が整っている環境で研究を行い、その研究成果を発表する機会も国内外で多く得ることができました。研究は「局所的な脂肪蓄積と動脈硬化度の関係と運動効果」をテーマにしています。現在は立命館大学総合科学技術研究機構で研究を続ける他、教育者として学部授業や大学院生への研究指導を行っています。本研究科では一つの結果に対して、多面的に考察する能力が養われました。自身の研究結果を的確に解釈し、わかりやすくプレゼンテーションをする経験は、現在も授業や地域への運動指導の際に生かされていると感じています。

D

長谷川 夏輝（はせがわ なつき）さん

博士課程後期課程　2018年3月修了
立命館大学総合科学技術研究機構　専門研究員

新しいスポーツ

スポーツ健康科学は
ひとびとの健康と幸せを考える学問。
いつの時代も社会の核となる。

イマジネーションを膨らませて、未来を創造していく人財を求めています。

スポーツ健康科学研究科　研究科長
長積 仁 教授

「スポーツ」や「健康」は話題性があり、ひとびとの注目を集めやすいのですが、これは単なるブームによるものなのでしょうか？スポーツ健康科学とは、「ヒト・ひと・人」にかかわる多様な現象を洞察することにより、ひとびとの健康や幸せそのものを探究する学術領域です。つまり、時代やブームに関係なく、ひとびとや社会にとって必要とされる学問です。その一方で、医療費や介護保険事業費の膨張にともなう社会保障システムへの不安が顕在化し始め、私たちは、損ねるか失われないと健康や幸福の大切さに気づかないことも事実です。

経済産業省がSociety 5.0やConnected Industriesを提唱し、大学のような研究機関と民間企業とのつながりを活かし、新しい社会づくりやスポーツ健康分野の成長産業化を推奨しています。そのつながりの核となるのが、ひとびとの健康や幸福を探究するスポーツ健康科学だと思っています。ひとびとの健康や幸福を核とし、地方自治体、民間企業、地域住民、そして大学が連携し、社会問題の解決だけでなく、新たな産業を産み出す。閉塞感が漂う現代社会で、新しい未来を創造する。本研究科で学ぼうとするみなさんには、イマジネーションを膨らませて、既存の枠組みにとらわれない新しいスポーツ健康科学をクリエイトするという志を持ってほしいと思います。大学院での学びは、華やかなものではなく、暗黒の世界の中で悶々としながら、微かな光を求めて、思考を巡らし、問いを立て、解を導くという行為の連続です。本研究科で学ぼうとするみなさんには、自らの研究で社会を変革するという壮大な夢を持つと同時に、「個」に目が向けられるひとになってほしいと思います。遺伝子レベルから社会レベルまで、また基礎研究から応用研究まで、スポーツ健康科学は多岐に渡りますが、まとめたり、分けたり、類似点や相違点を見つけ出そうとしたりするだけでなく、ひとびとの暮らしやひとの尊厳に目を向けることができる研究者をめざしてほしいと思います。前期課程では、与えられた環境の中で自分を律しながら、研究という「ことがらをなす」力を身につけて下さい。後期課程でさらに学びを進める人は、身につけた「型」から離れ、既存の枠組みや既成概念を打ち破り、研究者としての「個」を確立して下さい。私たちは、失敗を恐れず、常識を覆すことに果敢にチャレンジし、スポーツ健康科学のフロンティアを切り拓こうとする志のある人を求めています。

健康科学を拓く

インテグレーション コア
（スポーツ健康科学部／研究科基本棟）

充実した施設・設備

①**スポーツパフォーマンス測定室**：スポーツ動作をはじめ、あらゆる動作の計測・解析が行える多目的スペース。複数のハイスピードカメラも設置。
②**低酸素トレーニング室・低酸素実験室**：低酸素環境でのトレーニングが身体に与える影響を解析できる。
③**トレーニング指導実習室**：各種のトレーニングマシン機器を完備。トレーニング指導技術の習得を目指す。
④**栄養調理実習室**：システムキッチンや調理器具を整備。「食育」実践を行う場としても活用できる。
⑤**スポーツ健康指導実験室**：体型を3次元で瞬時に解析できる「3次元人体計測システム」や超音波画像診断装置、筋力および持久力の測定など、多様な機器を設置。
⑥**高機能画像撮影室**：「3T MRシステム」、骨密度測定装置を設置。
⑦**院生研究室1**：本研究科所属大学院生用の共同研究室。キャレルデスクを1人1台配置。

②

③

④

⑤

⑥

⑦

「ヒト・ひと・人を科学する」ための学び

博士課程前期課程：1専攻・2領域

スポーツ健康科学専攻

人材育成目標：スポーツ健康科学分野の専門的かつ高度な実践力と研究力をもつとともに、研究成果を社会に発信できる専門職業人ならびに研究者の養成を目的とします。

- **身体運動科学領域**：スポーツパフォーマンスや健康の維持・増進を科学的根拠に基づき解明する教育・研究を行う。
- **MASTER**
- **スポーツ人文社会科学領域**：スポーツ健康科学分野の教育・マネジメント力量を向上する教育・研究を行う。

博士課程後期課程：1専攻

スポーツ健康科学専攻

人材育成目標：スポーツ健康科学分野において先端の研究成果をあげ、その成果を実践に結びつけるとともに、研究プロジェクトなどにおいてリーダーシップを発揮することができる研究者の養成を目的とします。

- **DOCTOR**

文理融合を奏でるカリキュラム

前期課程（M）	基礎科目	共通基礎科目	科学研究特論 リーダーシップ特論	研究調査特論 専門英語
		専門基礎科目	身体運動科学特論	スポーツ人文社会科学特論
	展開科目	身体運動科学領域	スポーツトレーニング特論 健康増進科学特論 スポーツ工学特論	運動生理・生化学特論 バイオメカニクス特論 運動処方特論
		スポーツ人文社会科学領域	スポーツ教育学特論 コーチング行動学特論 スポーツマネジメント特論	スポーツ栄養教育学特論 スポーツマーケティング特論 スポーツビジネス特論
		特殊講義	スポーツ健康科学特論	
		キャリア形成科目	スポーツ健康科学キャリアプロジェクト インターンシップ	外国留学科目
	演習科目	演習	身体運動科学演習Ⅰ～Ⅲ スポーツ人文社会科学演習Ⅰ～Ⅲ	
		研究指導	研究指導Ⅰ	研究指導Ⅱ
	自由科目		単位互換履修科目	大学院コーオプ演習
後期課程（D）	講義科目		先端スポーツ健康科学特論Ⅰ・Ⅱ	
	実習科目		学外実習Ⅰ・2	
	演習科目		先端スポーツ健康科学特別研究Ⅰ～Ⅵ	

：必修　：身体運動科学領域は必修　：スポーツ人文社会科学領域は必修

特別企画座談会

「スポ健」のDNA ―魅力と強み―

2020年度で開設から10周年を迎える、立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科。
10年間で培われた『スポ健』の“魅力”と“強み”について、
大学院生と教員が、さまざまな角度から語ります。

伊坂 忠夫 教授
立命館大学副学長

藤田 聡 教授
立命館大学スポーツ健康科学部
副学部長

山浦 一保 教授
立命館大学スポーツ健康科学部
副学部長

角 大地
スポーツ健康科学研究科
博士課程後期課程（D）
3回生
（日本学術振興会特別研究員※1）
所属：後藤研究室

酒井 大輝
スポーツ健康科学研究科
博士課程前期課程（M）
1回生
（超創人材育成プログラム※5
第1期生）
所属：長野研究室

大橋 知佳
スポーツ健康科学研究科
博士課程前期課程（M）
1回生
（社会人入学）
所属：大友研究室

なぜ、スポーツ健康科学研究科に進学したのか？研究内容は？

伊坂 それではまず、大学院に進学した動機から聞いていきましょうか。

角 大学ではスポーツ科学、中でもトレーニング科学に重点を置いて学びました。どんなトレーニングを実践すればアスリートが効率的に身体能力を高めることができるのか。そこをもっと深く、専門的に研究したいと考えたのが大学院に進んだ理由です。最新の施設・設備が充実している、立命館大学のスポーツ健康科学研究科を選びました。

大橋 私は立命館大学のスポーツ健康科学部を卒業して、現在はフィットネスクラブで働いています。社会人として会社に籍を置きながら大学院に入学しました。もともと子どもへの運動指導に興味があり、体の使い方に加えてスポーツを楽しむということ、つまり科学的、人文的双方から専門的に学びたいと思いました。学部時代から親身になって話を聞いていただける先生が多いことも知っていましたし、勤務先がBKCスポーツ健康コモンズ※2で、かつ管理や運動プログラムに携わるようになったこともあり、この研究科に決めました。

酒井 大学院に進学した動機は、ひとことで言うと「自分磨き」のためです。学部生の頃からスポーツメーカーの研究職に就くことを希望していましたが、就職活動の際に出会った大学院卒の方々との力の差を感じたことが理由で進学を決めました。

伊坂 それぞれの研究内容を教えてください。研究にあたって施設や設備はどうでしょうか。

角 アスリートのパフォーマンス向上に繋がるトレーニング科学の研究を進めています。キーワードは「低酸素環境と持久性アスリート」です。学部生から大学院生になって実際に研究を進めていくと、立命館の設備の充実ぶりが実感できます。測定技術ひとつにしても、測定できる項目や種類が多いので研究のクオリティがとても向上するのが魅力です。

伊坂 国際的ネットワークという観点で本研究科はいかがですか。

角 様々な事情で日本ではなかなか実現できない研究を海外の先生方から教えていただけることがあります。私が所属する研究室でも国際交流はここ数年でかなり進んでいます。

藤田 海外から多くの研究者が来て大学院生や教員と交わることも国際化ですし、大学院生が国際学会で発表したり共同研究で海外に行くことも国際化です。本研究科がハブとなって海外からの研究者がセミナーや共同研究で頻繁に訪れることは、大学院生にとっても我々にとっても大いに刺激になっています。

伊坂 大橋さんは実践的な研究を深めようとスポ健に来ました。研究はどう発展していますか？

大橋 はじめは子どもたちの運動神経を良くするコオーディネーショントレーニングを学んでいましたが、いまはコオーディネーショントレーニングとフィジカルリテラシーの関係を追究していこうと思っています。運動能力を上げて終わるのではなく、そこから子どもたちが自信や知識を身につけて、生涯を通して運動を続けていく。大学院に入ったおかげで、自分が取り組みたいことはフィジカルリテラシーが軸になるという気づきをもらえました。

山浦 軸が見つかるというのはすごく大きいと思います。社会人になって、大学院での学びを仕事に活かそうという意欲のもとで見つかった軸は、スポ健が特に目指している「理論と実践」に繋がっていると思います。

酒井 私はバイオメカニクスを専攻しており、「筋シナジー」をキーワードに研究をして行こうと考えています。簡単に説明すると、人間の筋肉はひとかたまりのグループとして連動して動いているという考えです。まだ新しい分野で本学にもそれを研究している先生はいらっしゃらないテーマです。

伊坂 先生方が研究していないテーマにチャレンジする不安はありませんか？

酒井 先生方のバックアップがあるので安心しています。人的ネットワークも豊富で、筋シナジーを研究している先生を紹介していただいくこともあります。

藤田 チャレンジできる環境はとても大事だと思っています。自由な発想で研究にトライすることを実体験されているのは、我々にとっても嬉しいことです。

伊坂 そのテーマはやり遂げるほうがいいですね。研究で大事なことは全力でやること。そこはスポーツに近いものがあります。

「スポ健」ならではの魅力的な学びがある。

伊坂 酒井さんは学部からストレートで大学院に上がって来ました。学部と大学院の授業はどう違いますか？

酒井 アウトプットが大きく違うと思います。学部は先生の授業を聞いて、テストで評価されます。大学院の場合は学んだことをプレゼンする、自分の知識を相手に伝えることが重要です。

角 スポ健は「理論と実践」を大きく掲げています。授業では、理論ももちろん突き詰めていくのですが実践を重要視したものが多いです。アウトプットの話が出ましたが、スポーツの現場での経験から言うと、理論をアウトプットしていくことはかなり重要になってくると思っています。

大橋 私は社会人ですので、仕事につながるという部分が大きいです。授業の内容が、自分が受け持っている教室のプログラムにマッチしているとか、大人向けの授業でも子ども向けに応用が出来たり、多視点で学べています。

「合同ゼミ」発表の様子

伊坂　前期課程(M)での「合同ゼミ」※3は、複数の指導教員のもとで学ぶ、立命館大学の中でも珍しい科目です。実際に「合同ゼミ」を体験してみてどうですか？

大橋　自分の調べてきたことを発表するのは他の授業も同じですが、違う分野の先生方からの質問があるので、発表より質疑応答の時間が緊張します。的確な質問をされたときに答えられないと、自分がまだまだ理解に行き着いていないと気づきます。
私はとても刺激的な授業だと思います。専門が違うと質問の角度も変わり、鋭い意見をいただく雰囲気はまるで学会のような感じで、発表の練習になります。

伊坂　学会発表の経験も豊富な角くんは、「合同ゼミ」の意義をどう捉えていますか？

角　自分の研究を社会に発信していくことは大学院では特に重要になってきます。他の分野の人にいかに分かりやすく端的に伝えるか、そこを意識することが重要です。自分の指導教員とは違う視点がもらえる「合同ゼミ」の発表は、ある意味学会発表より手強いです。

山浦　大学院生はまだ若くて発想も豊かです。鋭い指摘を受けつつ自分の思考が刺激されて、より広がればいいなという視点で、教員は質問をしています。

藤田　「合同ゼミ」で一番大事なのは単純に発表するだけじゃなく、その情報を自分なりに咀嚼(そしゃく)して新しい価値や研究に繋げていくことが大切です。プレッシャーを感じながら発表していると思いますが、知識を融合していく力を養うのもスポ健の学びの特長ではないかなと思います。

カリキュラムを超えて貴重な経験が積める企業との共同研究。

伊坂　各研究室とも企業との共同研究に熱心です。角くん、実際に経験してどんなイメージを持っていますか？

角　私が所属する研究室では受託研究が多いです。企業から課題をいただき、ここの施設で実際に実験する形です。コンディショニング系のサプリメントの開発やウェアが運動に及ぼす影響の実験依頼もあります。企業の方と触れ合うことで、社会人しての経験の場も与えていただいています。

伊坂　共同研究しながらインターンシップをさせてもらっているイメージですね。

藤田　商品がどういう目的で作られているか、とか、開発していくステップに関わっていけるのは今後のキャリアにとって強みになります。もちろん苦労もあって、企業ですから利益の確保という部分と研究成果との葛藤もあります。企業で働くとそれを経験していくわけで、研究科にいながら先んじて経験できるのは良いことだと思います。

大橋　私はCOI※4を通じて草津市との関わりもあります。自分が取り組んでいるテーマが多くのフィールドで実践できるのはありがたいと思います。会社で、大学で、地域で、いろんな成果を出していける可能性が広がります。

伊坂　企業の立場や行政の立場など、それぞれの立場を理解できるのは共同研究の意義だと思います。

山浦　研究科のカリキュラムを発展させるものとしてかなり役立っていると思います。企業で働く人たちの目線を知った上で、自分の研究が社会にどう活かせるのか、を考えるチャンスをもらえます。

研究成果を社会とつなげるキャリアプログラム。

伊坂　酒井くんは「超創人財育成プログラム※5」の第一期生です。未来を思い描く中で自分のキャリア像をどう設定していますか。

酒井　スポーツメーカーの研究員として就職したいと考えています。超創人財育成プログラムでは、企業の方と連携して研究ができますし、メンターとして指導いただきます。従来は、ドクターに進学した人はアカデミアへ、という流れでしたが、企業で活躍できる人材を育成する、まさに私のためのプログラムです。研究だけでなく商品を生み出すところまで経験したいと思っています。

大橋　私の将来像は会社にコオーディネーショントレーニングの教室を設け、子ども向けの企画を事業化することです。コーチ陣には、いま私が研究しているフィジカルリテラシーの話も伝えたいです。日本では早い段階でひとつスポーツを選び、それを極めるのがいいとされる文化があります。早期化が燃え尽き症候群や慢性の怪我、スポーツ離れにつながるという論文もあり、スポーツを楽しむ感覚のもと、いろんな競技をやる子どもたちを増やし、生涯長く運動をする環境を作っていきたいです。

藤田　自分の研究をどうキャリアアップにつなげていくか、就職につなげていくかをディスカッションする授業が前期課程(M)の「スポーツ健康科学キャリアプロジェクト」。研究を社会実装にまでつなげる取り組みや、キャリアオフィスと連携した就活に役立つセミナーを実施しています。企業で活躍できる研究者を輩出することも、本研究科の目指すキャリアです。

研究を全力でサポートする制度が整う。

角　本学の研究助成制度はよく活用します。前期課程(M)のときは国際学会によく参加していたのでとにかくお金がかかります。スポ健独自の学会補助もあり、助かりました。

伊坂　本学では後期課程(D)は年に2回まで国内外ともに学会奨学金がありますし、前期課程(M)も同様の奨学金がありますね。

藤田　学会に行ったあと、海外の研究先で共同研究を行う場合、2週間、1ヶ月単位で滞在することもあります。そのような研究活動に対し、研究費や奨学金もあり、ここまで手厚いのは珍しいと思います。

伊坂　スポ健の大学院生には、ひとり1台のキャレルデスクが用意され、前期課程（M）は研究室を超えて大きなひとつの部屋が院生室となっています。実際に使ってみてどうですか？

酒井　いい環境だと思います。スポ健の強みといっていいのではないでしょうか。スポ健はタテのつながり、横のつながりが強いですが、その環境を生み出しているひとつかなと思います。

大橋　違う領域の人たちとも話をする機会ができます。院生室がなければ自分の研究室の人としか交流がなかったかもしれません。

伊坂　先ほど日本学術振興会の話が出ました。角くんは「学振」の特別研究員ですね。

角　スポ健は「学振」の採用率が歴代非常に高いので、結果を待っている時はプレッシャーでした（笑）。発表日は教員も院生もそわそわしています。

伊坂　酒井くんは「学振」にチャレンジしますか？

酒井　もちろんします。ドクターに進む人は確実にチャレンジすると思います。

藤田　目標は高く持ってほしいです。この研究科は世界のトップを目指していると宣言しています。世界の研究者と肩を並べる研究をして評価されることが大事。院生がそこを基準にしているというのは、とても頼もしいことです。

※2　**BKCスポーツ健康コモンズ**
立命館大学びわこ・くさつキャンパスにある体育施設で、学生・院生・教職員の他、地域住民（草津市内の保育園・幼稚園・小学生等）も利用可能。バスケットボールコート2面分のアリーナや屋内（25メートル）と屋外（50メートル）のプール、交流スペースなどがある。（株）東大阪スタジアムの専門インストラクターによるヨガやスイミングなどさまざまなプログラムが用意されている。

※3　**合同ゼミ**
博士課程前期課程（M）に配当される演習科目。正式名称は「身体運動科学演習」「スポーツ人文社会科学演習」。指導教員と大学院生の1対1の対応のみでなく、研究室の垣根を越えた集団的・組織的な研究指導を行っている。本研究科が志向する総合性・学際性を担保する形式であり、専門領域以外の教員からも指摘を受けることで、考え方の広がり、発表の工夫等、合同ゼミを通じて大学院生は大きく成長する。

※4　**COI（センター・オブ・イノベーション）**
国立研究開発法人科学技術振興機構が推進する10年後の目指すべき社会像を見据えたビジョン主導型のプログラム。立命館大学は、「運動」を媒介に「スポーツ・運動」と「医療」の両側面から健康を維持・増進し、全ての人々をアクティブな状態へ誘導する「アクティブ・フォー・オール拠点」となっています。

※5　**超創人財育成プログラム**
「人生100年時代」という前例のない長寿社会に直面する日本において、健康や医療、社会動向を理解し、アクティブライフ社会*の創出にかかわる新しい知識・技術・価値・スタイルの提案と事業化を図ることができる「アクティブライフ社会超創人財」を育成するプログラム。博士課程5年一貫制、「社会が必要とする博士人材」の輩出を目指し、2019年4月に開講。
*アクティブライフ社会とは…全ての人が生活の質を向上させ、豊かな人生を送ることができる社会

日本学術振興会特別研究員採用率

「日本学術振興会特別研究員※1」とは、国の優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度。本研究科院生は【2018年度43.0%】、【2017年度55.5%】、【2016年度40.0%】と、他大学大学院同分野と比較しても極めて高い採用率を堅持しています！

大学院生の半数近くが他大学からの進学者

≪**本研究科院生の出身大学**≫
筑波大学・同志社大学・同志社女子大学・青山学院大学・関西大学・近畿大学・龍谷大学・東海大学・愛知学院大学・東洋大学・國學院大學・佛教大学・流通経済大学・京都教育大学・徳島大学・香川大学・大阪市立大学・兵庫県立大学・奈良女子大学・聖心女子大学・京都女子大学・武庫川女子大学・日本体育大学・中京大学・天理大学・びわこ成蹊スポーツ大学など。

キャリアアップをねらう社会人大学院生

≪**本研究科院生の勤務先**≫
京都大学付属病院・武田病院グループ医仁会武田総合病院・こたけ整形外科クリニック・(医) 金沢整形外科クリニック・吉田整形外科病院・(財) 京都府体育協会・藍野大学・滋賀短期大学・(学) 立命館・京都医健専門学校・(学) 福田学園　大阪リハビリテーション専門学校など。

学費（※2020年度入学生適用予定）

スポーツ健康科学研究科（単位：円）

博士課程前期課程の**入学金**を2017年度から新学費が適用され、過年度比**328,000円**（本学園出身者比）が減じられました。

		入学金	1年次授業料
博士課程前期課程	本学園出身者	—	850,000
	他大学出身者	200,000	850,000
博士課程後期課程	本学園出身者	—	500,000
	他大学出身者	200,000	

※学費、奨学金、研究助成制度等、詳細については、立命館大学大学院入試情報サイト 検索 より「2020年4月入学立命館大学大学院入試要項（別冊）」をご覧ください。

2020年度4月以降入学者（他大学出身者）の入学金は、過年度比**100,000円**が減じられる予定です。

奨学金・研究助成制度（※2020年度入学生適用予定）

大学院生の研究活動をバックアップするための多様な制度を設けています。

立命館大学大学院 1年次対象成績優秀者奨学金	博士課程前期課程（1年次）において、研究科が定めた入試方式による合格者のうち成績優秀者に給付します。
立命館大学大学院 2年次対象成績優秀者奨学金	博士課程前期課程（2年次）において、優秀な学修および研究を行っている者に給付します。
立命館大学大学院 博士課程後期課程研究奨励奨学金	在学する優秀な研究業績を有する者の授業料を援助することにより、研究活動を奨励することを目的とした奨学金。S・A・B給付の三種の奨学金からなります。

その他の奨学金・支援制度
- 立命館大学大学院博士課程前期課程学生学会奨学金
- 立命館大学大学院博士課程前期課程研究実践活動補助金
- 立命館大学大学院博士課程後期課程学生学会奨学金
- 立命館大学大学院学生研究会活動支援制度(前期・後期課程)

教　員　紹　介

「文理融合」を掲げる本研究科では

身体運動科学 と スポーツ人文社会科学

それぞれの領域で、

高い研究力と豊富な教育実績を持つ教員が

丁寧な指導を行っています。

●：博士課程後期課程で研究指導担当可

身体運動科学領域

家光 素行 教授 ●

分子からヒトまでを科学し、
健康づくりに貢献する
運動・栄養摂取の方法を開発する

■専門分野
運動生理・生化学

■主な研究テーマ
科学的根拠に基づく心血管疾患リスクの改善のための運動・栄養摂取の開発

伊坂 忠夫 教授 ●

「動く」身体のメカニズムを
科学的に解明し、
ハイパフォーマンスと
ハイアクティブを実現する

■専門分野
応用バイオメカニクス、スポーツ科学

■主な研究テーマ
スポーツ競技力ならびに日常活動を高めるための応用バイオメカニクス

後藤 一成 教授 ●

最新のトレーニング科学を活用した
合理的なトレーニング方法を
世界に向けて発信する

■専門分野
トレーニング科学

■主な研究テーマ
競技力向上や健康増進に有効なトレーニングや疲労回復方法の検証

真田 樹義 教授 ●

健康づくりになぜ運動が重要なのか？
理解し、実践し、社会に伝える
リーダーになる

■専門分野
運動処方、応用健康科学

■主な研究テーマ
生活習慣病予防のための運動処方開発における科学的根拠の構築

塩澤 成弘 教授 ●

生体計測技術を
スポーツ・健康・医療分野に応用

■専門分野
生体工学、医用工学、スポーツ工学

■主な研究テーマ
生体計測とその応用

篠原 靖司 教授

スポーツ傷害の仕組みを解明し、
アスリートを傷害から守る

■専門分野
スポーツ医学、整形外科学

■主な研究テーマ
足・足関節外科（臨床医学分野）、腱・靱帯の組織病理研究（基礎医学分野）

田畑 泉 教授 ●

タバタトレーニングによる
スポーツ競技力向上と
健康増進に関する研究

■専門分野
スポーツ健康科学

■主な研究テーマ
スポーツの競技力向上のためのトレーニング法の開発、健康増進のための身体活動・運動に関する研究

長野 明紀 教授 ●

身体運動の仕組みを理解して、
パフォーマンスの向上に貢献する

■専門分野
バイオメカニクス、バイオサイバネティクス

■主な研究テーマ
人体の運動制御のメカニズムに関する研究、運動機能向上のための工学的支援

橋本 健志 教授 ●

「アクティブエイジング」を目指し
効果的な運動・栄養処方の
開発に挑戦

■専門分野
運動生理・生化学

■主な研究テーマ
健康増進や競技力向上のための運動・栄養処方の開発

藤田 聡 教授 ●

からだの“モーター”である
筋肉の活性化をつうじた
運動機能の向上と健康増進

■専門分野
運動生理・生化学

■主な研究テーマ
効率的な筋肥大を目的とした栄養摂取と運動介入に関する研究

スポーツ人文社会科学領域

海老 久美子 教授 ●

アスリートから高齢者まで
「スポーツ栄養学」で
人々の食と健康を支える

■専門分野
スポーツ栄養学

■主な研究テーマ
様々な対象へのスポーツ栄養学的介入とその効果の検討

大友 智 教授 ●

子どもと指導者の行動を「科学」し、
スポーツ指導に効果的な
プログラムを「開発」する

■専門分野
スポーツ教育学・体育科教育学

■主な研究テーマ
スポーツ指導における学習者行動の研究と指導プログラムの開発

岡本 直輝 教授 ●

スポーツ指導者らの
経験に基づく指導法を
科学的に検証する

■専門分野
コーチング

■主な研究テーマ
競技力向上のためのスキルに関する研究

種子田 穣 教授

スポーツビジネスは
どのように社会に貢献できるのか
―スポーツビジネスの
可能性を探求する

■専門分野
経営学／スポーツビジネス

■主な研究テーマ
ケーススタディによる優れたプロスポーツのビジネスモデル研究

長積 仁 教授 ●

人とスポーツと社会の
関係性をデザインし、
新しい未来を創造する研究

■専門分野
スポーツマネジメント

■主な研究テーマ
魅力的なまちを創造するソーシャルイノベーションとエコシステム

山浦 一保 教授 ●

チームをマネジメント！
効果的なリーダーシップと
フォロワーシップを探る

■専門分野
組織／チーム心理学

■主な研究テーマ
信頼関係の崩壊と修復、ビジョン浸透とその機序に関する研究

上田 憲嗣 准教授

発育発達に関する
知見に基づいた教育を通じて、
子どもたちの未来を拓く

■専門分野
スポーツ教育学、発育発達学

■主な研究テーマ
子ども期の動作コオーディネーション能力の向上に関する研究

小沢 道紀 准教授

なぜ人は欲しいと思うのか、
そして企業はその気持ちに応えるために
何をするべきなのか、を探索する

■専門分野
経営学（マーケティング）

■主な研究テーマ
スポーツならびに健康および食に関わるマーケティングの展開

河井 亨 准教授

人はどのように学び、成長していくのか
「成長」を科学し、
「学び」の可能性を広げる

■専門分野
教育学・大学教育学

■主な研究テーマ
大学生の学びと成長

永浜 明子 准教授

自己をしる・他者をしる。
すべては「考える」から始まる。

■専門分野
アダプテッド・スポーツ／臨床哲学

■主な研究テーマ
だれもが楽しめる身体活動／「ひと」について

祐伯 敦史 准教授

視線の動きから、
人の文理解や認知プロセスに迫る

■専門分野
心理言語学

■主な研究テーマ
言語理解や習得のプロセスについての研究

数字で見る スポーツ健康科学部・研究科の研究力

教員が獲得した外部資金（2019年7月調査）

①受託研究
企業などの学外機関からの特定課題に関する研究委託
56件　約3億円

②共同研究
企業などの学外機関との共同研究
19件　約2,700万円

③奨学寄附金
教育研究の補助を目的とした寄附金
4件　約350万円

④科学研究費
新規・継続課題：保有件数
29件　約7,500万円

立命館大学大学院　スポーツ健康科学研究科　2020年度入学試験日程

博士課程前期課程

専攻	入試方式	実施年月	出願期間	試験日	試験予備日	合格発表日	第1次手続期間	第2次手続期間
スポーツ健康科学	一般	2019年11月	10/11(金)～10/25(金)	11/16(土)	11/24(日)	12/4(水)	12/4(水)～12/18(水)	2/26(水)～3/11(水)
		2020年 2月	12/27(金)～ 1/10(金)	2/1(土)	2/8(土)	2/26(水)	—	
	社会人	2019年11月	10/11(金)～10/25(金)	11/16(土)	11/24(日)	12/4(水)	12/4(水)～12/18(水)	
		2020年 2月	12/27(金)～ 1/10(金)	2/1(土)	2/8(土)	2/26(水)	—	
	外国人留学生	2019年11月	10/11(金)～10/25(金)	11/16(土)	11/24(日)	12/4(水)	12/4(水)～12/18(水)	
		2020年 2月	12/27(金)～ 1/10(金)	2/1(土)	2/8(土)	2/26(水)	—	
	学内進学	2019年 7月	5/31(金)～ 6/14(金)	7/6(土)	7/13(土)	7/24(水)	7/24(水)～ 8/7(水)	
		2019年11月	10/11(金)～10/25(金)	11/16(土)	11/24(日)	12/4(水)	12/4(水)～12/18(水)	

博士課程後期課程

専攻	入試方式	実施年月	出願期間	試験日	試験予備日	合格発表日	第1次手続期間	第2次手続期間
スポーツ健康科学	一般	2019年11月	10/11(金)～10/25(金)	11/16(土)	11/24(日)	12/4(水)	12/4(水)～12/18(水)	2/26(水)～3/11(水)
		2020年 2月	12/27(金)～ 1/10(金)	2/1(土)	2/8(土)	2/26(水)	—	
	社会人	2019年11月	10/11(金)～10/25(金)	11/16(土)	11/24(日)	12/4(水)	12/4(水)～12/18(水)	
		2020年 2月	12/27(金)～ 1/10(金)	2/1(土)	2/8(土)	2/26(水)	—	
	学内進学	2019年11月	10/11(金)～10/25(金)	11/16(土)	11/24(日)	12/4(水)	12/4(水)～12/18(水)	

入学定員

博士課程前期課程 25名／博士課程後期課程 8名

※入学定員は、各課程の全入試方式の募集人数を合わせたものです。

※災害等により「試験日」に入学試験を実施できないと大学が判断した場合のみ、「試験予備日」に入学試験を延期します。

※「試験予備日」に入学試験を延期する場合は「Ritsu-Mate」で告知します。不測の事態により急遽延期になる場合もありますので、試験日が近づきましたら、こまめに確認するようにしてください。

アドミッション・ポリシー

スポーツ健康科学の基礎的素養を備え、総合的・学際的な教育・研究を通じて、社会の発展に貢献することができるために、以下のような事について学術的な興味を持ち、得た知識を社会に広く還元したいという意欲を持つ人材を求めます。

【博士課程前期課程】

＜関心・意欲＞

1. スポーツ健康科学の社会的な諸課題の解決について、強い関心を有する者。
2. 総合的・学際的なアプローチを用いて新たな研究分野を切り開こうとする者。
3. 理論と実践を通じた研究活動を展開し、社会に還元する意欲のある者。

＜基礎的素養＞

1. スポーツ健康科学を構成する学問の基礎知識を有し、論述、口述などにより、自らの考えを論理的かつ明快に表現できる。
2. スポーツ健康科学に関連した記事・論文等の英文読解力、ライティング力を備えているか、英語に関する基礎的な力を有する。
3. スポーツ健康科学に関連した現場での実践経験を有する、もしくは関心がある。

【博士課程後期課程】

1. スポーツ健康科学に関わる確かな知識と基礎的な研究能力を有する者。
2. 新たな学術領域や複合領域を開拓するとともに、研究成果を実際に応用する意欲や独創性ある研究を進める意欲を持った者。

Q&A

Q1　スポーツ経験者や理系出身者でなくても入学可能ですか？

A1　所属・出身学部や、スポーツの競技経験は問いません。スポーツ健康科学分野における研究に強い意欲を有する方を募集します。ただし、後期課程では、スポーツ健康科学分野における研究実績や修士論文などの提出を要します。

Q2　社会人対応のカリキュラムはありますか？

A2　本研究科では、入学試験の区分に関係なく同一のカリキュラムで学習・研究を進めることになります。授業は、基本的に月～金曜日の9：00～19：30（前期課程）、18：00～21：10（後期課程）の間で行います。

Q3　どのようなキャリア支援が受けられますか？

A3　本学キャリアセンターと連携し、学生の社会観・職業観育成、社会における力量形成などを主眼においたキャリア支援を行っています。また、大学院生に特化したキャリア形成とキャリアパスの構築を支援するために、「大学院キャリアパス推進室」を設置しています。

Q4　入学試験は、いつ実施されますか？
入学試験の方式と試験科目は何がありますか？

A4　本研究科の入学時期は4月のみです。入学試験の日程および入試方式、試験科目などの詳細は、入学前年度の5月頃に「立命館大学大学院入試情報サイト」で公表される入学試験要項をご確認ください。

Q5　入試の過去問題は公開していますか？

A5　過去2年分の問題を「立命館大学大学院入試情報サイト」（※トップ→入試情報→過去の入試問題）で公開しています。 ただし、著作権の都合上、公開できない問題もありますのでご了承ください。なお、スポーツ健康科学部事務室でも閲覧することができます。

お問い合わせ先　**スポーツ健康科学部事務室**

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1
びわこ・くさつキャンパス インテグレーションコア2階
TEL. 077-561-3760（直通）

事務室窓口時間

（電話および窓口での質問・相談は下記の時間帯にお願いします。）
土日祝を除く10:00～11:30、12:30～17:00（開講期間外は13:00～17:00）
※一斉休業期間中は、電話や窓口での質問、相談は受け付けられません。

入学試験・研究科の詳細はホームページまで

立命館大学大学院入試情報サイト	http://www.ritsumei.ac.jp/gr/
スポーツ健康科学研究科ホームページ	http://www.ritsumei.ac.jp/gs_shs/
スポーツ健康科学部・同研究科ブログ「あいコアの星」	http://www.ritsumei.ac.jp/shs/blog/

+R 未来を生みだす人になる。
立命館大学
RITSUMEIKAN UNIVERSITY